

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	13	学 校 名	静岡県立三島長陵高等学校	校 長 名	石垣 智博
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自主的・自律的な学 ぶ姿勢の育成と、確 かな学力の定着	少人数授業、習 熟度別授業、TT 等による授業 実施	ほとんどの授 業が20人以下 の少人数で行 われている。国 数英と物理は 習熟度（難易 度）で2種類の 講座を用意し、 生徒が選択で きるようにし ている。	B	少人数の授業で目が行き届きや すく、大勢の集団が苦手という 生徒にも対応できている。習熟 度の高い方の講座では大学進学 を見据えたレベルの高い授業を 行うことができている。
		補習・学習相談 等の実施	卒年次進学希 望者に対して 学習相談及び 面接指導を適 宜実施した。	B	教員間の情報共有をすすめるこ とで、効果的な指導機会を増や したい。
		丁寧な学習指 導・修得を目指 した履修指導	【各教科】A:50 % B:50% C 、D:0% 【HR担任】A:36 % B:60% C :4% D:0%	B	ICT の活用により、生徒のモチ ベーションの向上や学習内容の定着 を図ることができた。一方、不認定 になる者が各講座で一定数おり、 改善の方策が必要である。
		年度当初に実 施する諸検査 及び教科科目 の小テスト等 で生徒一人一 人の学力を把 握し、それに基づいて授業改 善に取り組む	年度当初に国 数英の3教科 で学びの基礎 診断のための 小テストを実 施した。それにより入学時点 での生徒の学 力や苦手分野 を確認し、授業 に活かした。	A	年度末に再度同じ問題で実施 し、生徒の学力の向上の度合い を確認しなければならない。
		授業のユニバ ーサルデザイ ン化と生徒の 主体的な学習 の推進を目的 にICT機器を積 極的に活用し て授業改善に	クロームブッ クの普及と活 用方法の共有 が効果を示し、 肯定的な回答 が88.9%とな った。	A	授業の活動の質を高めるためのI CT活用が進んでいる。ChatGPT などの生成 AI を授業に活用する 際の注意点や方法を学ぶことが今 後の課題である。

様式第 3 号

		取り組んだと答える教員 85%以上（令和 5年度 82.0%）			
		全教員の授業 相互参観の実 施（年 1 回以 上）	肯定的な回答 が 94.5%だっ た。研修と絡め た実施が効果 を発揮したと考 えられるが、複 数の授業を参 観するなど積極 的に参加する 教員も多かった。	A	昨年度は授業者の授業づくりに 焦点を当てた公開授業を行い、 今年度は参観者の参観方法に力 を入れた公開授業を設計した。 これらの基礎を活用しながら、 自発的な授業相互参観の促進が 今後の課題である。
		授業評価で授 業がわかりや すいと答える 生徒 85%以上 （令和 5 年度 86.2%）	生徒に実施し たアンケート では肯定的な 回答が 88.4% だった。	A	学習指導要領及び教科書が新し くなる中で、先生方が教材研究 に励まれ、生徒が学びを実感で きる授業を作っていることが分 かる。再任用や非常勤の先生と の連携や生徒が成長を実感でき る授業づくりが今後の課題であ る。
		・新学習指導要 領への移行に 伴う授業時間 割の作成と適 正な履修指導 （継続）	新教育課程に なって 3 年目 で、本校の新課 程科目がすべて 開講された。旧 課程の生徒が 旧課程の科目 を新課程に読 み替えながら 履修していく 指導が徹底で きた。	A	履修チェックシートに基づい て、生徒がミスなく履修するこ とができた。生徒の履修状況 を見ながらどの科目を何講座開 講するかを年度ごとに判断してい くのが課題である。
		・校内（全体・ チーム）研修の 実施（10 回）	12 月までに校 内研修 3 回と チーム研修 11 回を実施した。	B	計画に沿って研修を実施するこ とができた。今後の課題として は、各課の問題意識を吸い上げ ながら、学校をよりよくするた めのテーマ設定していきたい。

イ	基本的な生活習慣の確立と、自立心と社会性の涵養	家庭連絡や定期的な出欠情報の提供（毎月）	授業への出席状況については、毎月家庭に資料を郵送して情報提供に努めた。また、メールでの家庭連絡や各HRではGoogle Classroomによる連絡も行われている。 【HR担任】 A:72% B:28% C、D:0%	A	家庭での連絡により、家庭での協力が得られた場合は、その後の出席状況の改善につながることがあった。毎月の文書の郵送に加えて、電話でもこまめに連絡をすることが必要である。
		各授業の欠席、遅刻の減少を進め、履修率65%以上（令和5年度58.4%）	12月末までの履修率は67.4%であり、昨年度より9%向上した。	B	特に1年次生の前期中間テスト以後の欠席の増加を食い止めることが課題である。
		3、5、7限の校内巡視による時間厳守の呼びかけ	教員間で連携を図りながら確実に実施する事ができた。	A	来年度も継続したい。
		進んで挨拶ができる生徒70%以上（令和5年度74.3%）	本年度は68.9%	B	教職員から挨拶をし、挨拶のしやすい雰囲気をはかる。
		毎朝の登校指導、公共マナーに関する働きかけ	清掃やペットボトル捨て方など公共マナーの啓発を行った。	A	ペットボトルの捨て方について意識させたい。
		日常清掃や草花の育成等、環境美化活動の実施により、教室等校内がきれいだと感じる生徒の割合85%以上（令和5年度80.6%）	美化活動、大掃除は計画通りに実施することができた。きれいだと感じる生徒の割合は88%で目標を達成することができた。	B	美化活動、大掃除や草花の育成など例年通りの活動ができた。日常の清掃活動を充実させたい。

様式第3号

ウ	キャリア教育を通して、一人ひとりの生き方の育成	進路講演会、キャリアガイダンス等の実施（9回）	9回実施した。	A	様々な進路分野について考える貴重な機会となっている。
		進路指導が子どもの進路実現のために役立っていると答える保護者85%以上（令和5年度81.3%）	あてはまる27.0% ややあてはまる54.1% 計 81.1%	B	担任との面談などを通して「進路のしおり」を活用するような働きかけをしたい。
		就職及び大学進学指導力向上のための連絡会議	進学情報交換会や卒年次担任会で情報を共有した。	B	複数の教員による個別指導につながった。
		就職者への個別支援、求人依頼企業との関係構築	生徒の状況に応じた個別指導を実施した。	B	ジョブサポートティーチャーとの連携を継続。
		「進路のしおり」の改善、「進路だより」の発行	進学費用や出願方法について追加更新した。	B	必要な進路情報を得るきっかけとなるものにしていきたい。
		リベラ・ヒューマン・サポート、青少年就労支援ネットワーク静岡等のNPO法人との連携	ほっとカフェを年間38回実施した。昨年度より参加者が増加し、生徒の支えとなっている。	B	就労支援によりアルバイトの斡旋を受けた生徒もいた。
		外部講師による講話・実習の実施	1年次3回、中間年次3回、卒年次4回実施した。	B	生徒の意欲的な取り組みが見られた。視野を広げる機会となった。

エ	心身ともに健康で、他を思いやる心豊かな感性の涵養	スクールカウンセラーを活用した個に応じた細やかなカウンセリングの実施（通年）	・担任や養護教諭との連携により、面談の実施に至ることができた。 ・困難な事案について SC の助言により前進することができた。	B	・定期的な面談により、生徒、保護者のサポートにつながった。 ・個別の相談に加え、メンタルヘルスに関して、啓蒙、深刻化の予防について全体への投げかけに活用したい。
		「相談室だより」の発行（9回）（令和5年度11回）	・R6.12月現在、9回発行済。年度末までに2回発行予定。	A	・SC, SSWにも記事を依頼し、メンタルヘルスについて啓蒙した。 ・長期欠席者やその保護者の目に確実に触れるようにしたい。
		バッテリーテストを用いた初期指導の充実	・中間、卒年次生のデータを新クラスに対応させ、担任と共有した。 ・HRごとに適切なタイミングで結果を返却した。（新入生のみ）	B	・年度当初の職員研修にて、結果と生徒の傾向について共有し生徒理解の一助とした。 ・結果の返却時期を考慮し、結果の有効活用について検討したい。
		「保健だより」の発行（9回）（令和5年度11回）	12月までにすでに目標は達成しているが、今後も発行予定がある。	A	身近な健康課題を取り上げ、健康について意識させることができた。今後も内容の充実を図っていきたい。
		校内研修、講演会の実施	4月に生徒理解のための校内研修を実施した。相談室の山崎先生にお願いし、生徒の履修率とバッテリーテストの関係についてご講演いただき、他分掌と連携した良い研修が実施できた。	A	再任用・非常勤の先生にも参加をお願いし、生徒への合理的配慮について理解を深める機会ができた。また、相談室・SCと連携して、「喪失体験」への理解を深める研修を実施した。生徒同士の人権意識を高めていくことが今後の課題である。
		特別支援学校及び通級学級（中学校）への視察	特別支援学校に行き授業参観と個別相談をした。	B	特別支援コーディネーターに教員から直接相談する機会を作った。
		「図書だより」の発行（9回）（令和5年度）	・4・5・6・7・9・10・11・12・1・2の各月、	A	図書委員も紙面作成に協力したが、より充実したものになりたい。

様式第3号

		10回)	計10回発行できた。		
		図書室を利用したイベントを実施し、図書室利用者数の増加を図る	・図書室でブックフェアを実施した。また、図書室にアクセスポイントを設置し、利便性を増した。ブックサンタという社会貢献活動にも参加した。	A	ブックフェアは報道提供も行い校内外に広報した。1クラス減で貸出冊数は多少減ったが、逆に図書室利用者数は増加した。
		PTA 花いっぱい運動による花壇や中庭等美化活動（2回）	春、秋の2回、計画通りに実施できた。	A	実施時間の変更により、参加者が増加した。
		PTA、後援会等の文化祭や学校行事への支援（3回）	PTA・後援会の積極的な参加（模擬店）が行われた。	A	PTA・後援会と生徒との関わりが深まった。
		部活動指導により、部活動に満足していると答える生徒90%以上	A:53.2% B:38% C:8.9% D:0% 概ね満足度が高い。	A	活動内容や部の方針など個々の生徒と相談しながら、活動に取り組むことができた。
		生徒主体の文化祭を実施し、文化祭に満足していると答える生徒70%以上 （令和5年度62.6%）	文化祭に満足した生徒は5段階の4または5で67.6%。	B	現状を維持しながら生徒が満足できるような文化祭を行いたい。

様式第3号

オ	東部の生涯学習拠点として、開かれた学校づくりを推進	科目履修制度の充実、広報	学校ホームページで科目履修生の募集をお知らせし、受け入れ科目を掲載した。	B	今年度は1名の申込があった。正式な登録の前に電話や面談で希望者の意向をよく確認し、ミスマッチがないようにするのが課題である。
		放送大学、静岡中央高校通信制課程及びふじのくに中学校との連絡会議（毎月）	毎月の連絡会議を実施し、施設の共用を中心に事前の調整がうまくできた。	A	他校の行事予定を確認し、施設利用の重複に早く気づいて、調整していく必要がある。
		他機関との連携による継続した学び（ふじのくに中学から本校へ、本校から放送大学へ、など）についての調査、研究	ふじのくに中学校からの見学者を受け入れ、入試の相談について情報交換をすることができた。	B	放送大学の広報を受け入れ、本校生徒の進路選択先のひとつとしたい。
		学校魅力化方策の立案及び実施	県外6校を視察し、魅力化に繋がる取り組みを調査することができた。	A	魅力化に繋がる方策の実施については校内での調整が必要になる。
		HPの充実・活用（週2回以上）	「校長日記」を中心にほぼ毎日更新することができた。	A	新しいHPのシステムをより多くの教職員が使用できるようにしたい。
		39メールによる的確な情報発信	緊急かつ確実に周知すべき事項についてメールにて配信することができた。	A	生徒・保護者のメール配信登録を確実にし、的確な情報発信に努めたい。
		学校案内や学校紹介の改善（毎年）	学校魅力化方策の一環として、学校案内を刷新した。（学校魅力化担当）	A	本年度の案内を基にして、情報の改訂を行う。
		学校見学、個別説明を希望する保護者や生徒への丁寧な説明と対応	学校見学や個別説明を希望するすべての保護者・生徒に対応ができた。	A	10月の学校説明会、12月と1月の2回の入試説明会を継続して行いたい。

様式第3号

カ	適正な事務処理及びワークライフバランスの充実	監査での文書指摘事項ゼロ	文書指摘事項もなく適正に処理することができた。	A	今後も法令を遵守し、指摘事項ゼロを目指す。
		適切な窓口及び電話対応(毎日)	丁寧で迅速な対応ができている。	A	今後も適切な対応を行う。
		施設、設備の安全点検(毎月)	全職員による点検は3か月毎であったが、担当者による点検は滞りなく実施	B	全職員による点検方法の改善
		図書室の開室(生徒登校時毎日)	・授業日は、毎日開室することができた。利用者も令和5年度と比較して増加している。	A	図書室担当職員が不在の際は、図書課の教員と事務室の職員で連携して対応できた。
		週1回の定時終業を実施する。	毎週水曜日を定時終業日として設定した。	A	来年度も継続したい。